と言われたものが、ゆとはかつて、詰め込み教育

こ つつある。新しい知識やこうになり、知識や技能がこうになり、知識や技能がいない。 基盤社会」と言われるよ

- 視され、学習指導要領を のの成績がよくなかった。 この調査の結果、日本・

1 階で、次の段階はそれを2 能を習得するのが第1段 場での基本的な知識や技

う余地がない。そうした中で、学習指導要領その流れがより一層の深化傾向にあるのは疑ら、自らの五感を駆使する体験学習へ移行し、

改訂の経緯(ダイジェスト)

して顕著になり、これら社会的な「ゆと り」の希求と相まって、教育にも同様の

対応が求められた。戦後の知識重視型教育(詰め込み教育)に対して、「ゆとり

教育」の形で77~78年に学習指導要領が 全面改訂され、学習内容や授業時数の削

減などが行われて80年に施行された。こ

れが、教育のゆとり化路線の始まりだ。

全面改訂 (92年施行) されて、ゆとり化 路線はさらに強化された。そして、98~

99年にも全面改訂され(02年施行)、実

質的なゆとり教育へと移行した。学習内

容と授業時数の削減、完全学校週5日制

の実施、総合的な学習の時間の新設、絶

一方、当初から懸念されていた学力低

下は、PISAの03年調査結果で数字として表れた。そして、07年に安倍内閣が「教育の再生」としてゆとり教育の見直

しに着手。08年に新学習指導要領案が告

PISA調査での日本の結果

523点

_年 | 2006 | 2003 | 2000

6 位

548点 557点

500点 500点

対評価の導入などが行われた。

示された(11年施行)。

数学的リテラシー

その後も、89年に学習指導要領が再び

1970年代の日本社会は、高度成長の陰 で失われかけた人間性の回復、あるいは 週休2日制の普及などがムーブメントと

全国修学旅行研究協会 中西朗理事長に聞く

の背景と望ましい修学旅行の方向性を聞き、国修学旅行研究協会の中西朗理事長に、改訂深耕する上で欠かせない。その観点から、全で知りい体験学習のフィールド提供をさらに関することは、特別活動にふ

全体像をまとめてみた。(編集委員・泉朝雄)

ある。90年代から「知識背景には、社会の変化が新しい学習指導要領の

(学習到達度調査)の学 のがPISA

また、改訂 充実する。 のがあって、

次の点を指摘する。日本の教育の課題として日本の教育の課題として日本の教育の課題として日本の対象の課題として日本の対象を指摘する。

3段階の流れだ。まず、その根底にあるのは、

る。

学ぶことも

改訂の背景には

力調査だ。

新学習指導要領と修学旅行

課題①社会の変容(知識基盤社会1990年代半ばから)

第3種郵便物認可

知識、技能のグローバル化(新しい知識や情報、技術が政治、経済、文化をはじめ社会のあらゆる領域 での活動の基盤となる)……PISA的学力

日本教育の課題(ゆとり観→学力低下、規範意識の低下、言語能力の低下……)

学習指導要領の改訂(確かな学力の確立のために必要な授業時数の確保)……内容の増加

基礎的基本的な知識、技能の習得→知識、技能を活用して課題の解決するために必要な 思考力、判断力、表現力などの育成→それを支える学習意欲の向上や学習習慣の確立

ーワード(活用する力の育成、規範意識の高揚、言語活動の充実、体験活動の充実)

課題②修学旅行の変容(学びの検証の重視)

(集団意識→社会的ルール、人間関係の確立→生きる力)=体験活動重視

《体験とは、子供自らが、耳で聞き、目で見て、手で触って感じ、考え、表現すること》

体験の対象(自然体験、社会体験、文化体験、生活体験、人間問体験、道徳体験……)

触れ合いを通して実感的に捉え、新たなる意欲や好奇心を湧かせるとともに、実生活と 結び付いて実践化がなされ、自らの創造、発展につなげていく(知性、感性へと高める)



課題③学校としての取り組み(修学旅行の構造化)

目標設定、学習材の選択、情報の収集、子供プロジェクト、コース設定、感動体験、価値の集大成



課題④旅行会社、受け入れ施設、地域へのアドバイス=子供たちに伝えたい感動の明確化

学校の目的の理解と手助け、地域からの情報発信、地域組織の充実、精神的ゆとり……



「旅」の変遷

拠点地域の選択→体験内容の選択⇒紀行を旅する→土地には独自の風が吹きその中に身を置く

作図:全国修学旅行研究協会 中西 朗

影響があるとは考えに 手長に聞いた。 をする地域や施設に する旅行会社、 指導要領が改訂さ 修学旅行に ようになる。 イスを中

修学旅行にかかわる課 科学習で得た知識を基 修学旅行に

と継続が欠かせない。 学校は必要としてい み姿勢やノウハウの蓄積 地域全体としての取り げられる。この組織には、 できないような情報を、 り入れ組織の充実が挙っつ目として、地域の いなければ発信 る。

換えれば地域の人々が 「子供たちに与えて

自ら

に終わるも

考えて表現するというも 道徳ほか身の回り の側から捉えると、個々続けていく。また、教師

感じ取る力の高まり 中に芽生 が生き

どが深まってくる。それ度や考え方、仲間意識な ロセスと体験によって、 行が演出される。このプ 教科学習をはじめ生活態

解説をまとめてみよう

中西理事長の どのようなも ここで指摘された体験

で心に残る修学旅

のではないかとの危惧がある。体験学習受け入ればないたって、その努力がの整備に注力してきた地に対してきた地にないのを備に注力してきた地に対している。体験学習受け入ればないがとの危惧がのではないかとの危惧が 杞憂のようだった。中西し、この不安はどうやら 識重視の従来の姿に戻る 習の芽が、体験よりも知とは異なる体験による学 疑問の背景には、学科

けるような知識を測定 般的な知識 を与えて遊び暮らす意

れには賛否が分かれる。 本来のゆとり教育は、 学力低下を「ゆと

、「確かな学、学習指導要

識のままではなく知性に 常に大切なことだが、知 する。言い換えれば、知っていは表現力などを育成っていは表現力などを育成っている。言い換えれば、知っている。言い換えれば、知っている。

したとき「生きる力」 日本独自の教育の骨組を

のようになる。 修学旅行が位置付け る。特別活動自体が

習のほかに特別活動の中に学校教育では、教科学のようにたる 長の解説を要約すると

体験する

院にその場所へ行く 最終的には第4の

なり、最終的こよ再しつを組み立てるステップと 活躍できる場を与えるこ 体的にものごとを考え、 にデザインするか。ここ踏まえて内容をどのよう 行の方向性を設定する。 ぞれが描く「生きる力 目標に沿って、 それが第3の体験 この基本姿勢を 修学旅

何を身に付けさせたいか える。そこで必要なのは、 こと。つまり、学校に教育的ニーズを捉 ての基本的な姿勢で

ドキドキ、ワクワク、時にはビックリ!

素直に感じたことが将来きっと宝物になるはず。

パラでとっておきの



水族館の生きものについてや、飼育係と 所要時間 20分 いう職業についてなど、水族館に関する 実施時期 通年(土・日・祝日 さまざまな質問にスタッフがお答えしま および繁忙期は除く) す。『海の動物たちのショー』の会場でマイクを使用して行いますので、大人数の団体さまにもご利用いただけます。 入館料のみ(※1)

アムの裏側をスタッフと一緒に見学し、 不思議だらけの水族館のしくみを勉強し 不思議だらけの水族館のしくみを地畑の 例 を附回 5000 通年(土・日・祝日ます。見学後は質問タイムを設け、飼育 実施時期 通年(土・日・祝日 および繁忙期は除く) 係からの簡単なレクチャーで生徒たちの 質問に答えます。

(※1)学校団体専用チケットをご用意しております。 〈スクールワンデーパス〉高校生3,200円/中学生2,700円/小学生2,400円 〈アクアリゾーツパス〉高校生1,700円/中学生1,200円/小学生1,000円 (アクアリソーツハム)高校主1,700円/キー1にといった。 このほかにも、楽しく学びながら体験できる場を幅広くご提供するプログラム このほかにも、楽しく学びながら体験できる場を幅広くご提供するプログラム をご用意しております。ただし、各プログラムは学校行事でのご利用に限り ます(要事前予約)。詳しくはお問合せください。 ます(要事前予約)。詳しくはお問合せください。 まず(要事前予約)。詳しくはお問合せください。

🤼水 族 館 🗙 アトラクション 🅸 浜・八景島シーパラダイン

でかける人を、ほほえむ人へ 西武グループ

40名(1日4~5回)

定員 40名 所要時間 30分

www.seaparadise.co.jp

よって方向転換し、再びが新しい学習指導要領にり教育に変わった。それと言われたものが、ゆと 語め込み教育に戻るの 素朴な疑問がある。

受け入

は学校の

が 基盤となってきた。 経済、文化をはじめ社会 経済、文化をはじめ社会

った。学力低下を「ゆと改訂する引鉄の一因にな

領の改訂は、 う

本の教育で大きな課題に

力の育成、規範 して体験活動の充実とな力の育成、規範意識の高力の育成、規範意識の高 い学習指導要領のキ

目的理解を 学旅行に関する中西理事学旅行に関する中西理事 れを検証するフィール知識や技能に対して、

られた規範意識だ。学科すべき点は、解説で触れ 学習で習得した基本的られた規範意識だ。学

有意

のを具体的に展開するの 立する。言わば、生きる行を通して人間関係を確 直すことであり、 の基本に立ちかえるこ 人間関係を見

集団的な意識として 点としての第

そうした思いで、学習 習意欲が低下している。 れてきた。そこで、新し指導要領の改訂が進めら が、それを修れた背景は、 う関連付けるのか。注目が、それを修学旅行とど 位置付けの 指導要領が改訂 、概ね以上が

習慣の確立が必要になて学習意欲の向上や学習 一般的には、この学 OECD平均 498点 全参加国中の順位 10位 読解力 日本の得点 OECD平均

日本の得点

年 2006 2003 2000 498点 | 498点 | 522点 492点 | 494点 | 500点 全参加国中の順位 | 15位 | 14位 | 8位

2006 | 2003 | 2000 日本の得点 531点 548点 550点 OECD平均 500点 500点 500点 全参加国中の順位 6 位 2位 2位 ※文科省資料から要約

PISA (Programme for International Student Assessment)は、OECD (経済 協力開発機構=先進34カ国加盟)による 国際的な生徒(15歳)の学習到達度調査 のこと。2000年から始まり、3年ごとに 行われている。数学的リテラシー、読解 力、科学的リテラーなどを調査。

そのことを学 心になる。 いくことが

